

公正取引委員会競争政策研究センター

「市場参入と産業活性化に果たす競争政策の役割」

## 競争と淘汰の最前線からみた競争政策の課題

---

2009年1月23日



株式会社 経営共創基盤  
Industrial Growth Platform, Inc. (IGPI)

代表取締役CEO 富山和彦

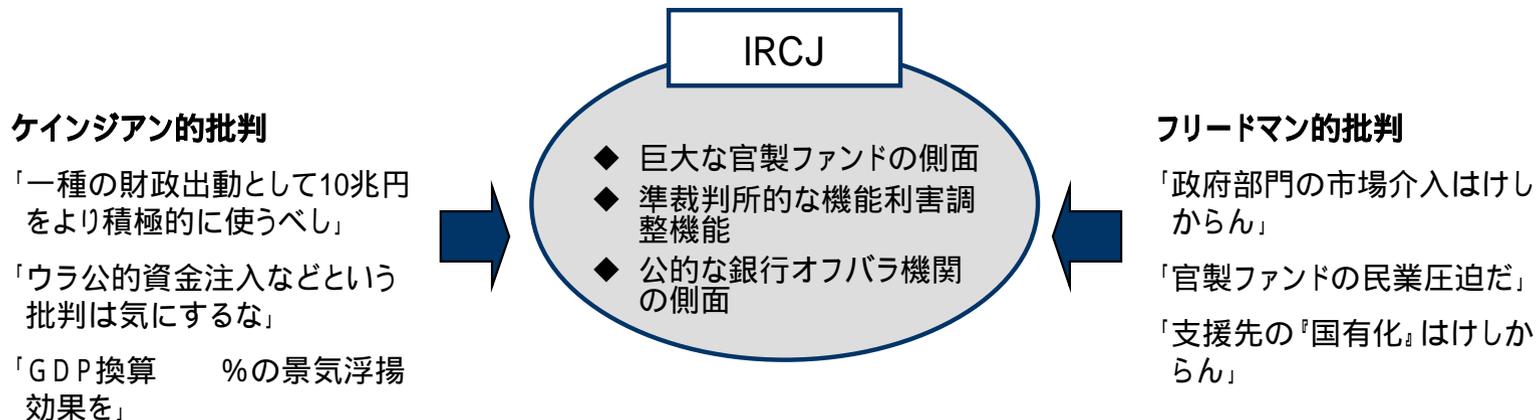
# 目 次

---

1. 経済政策に関わる議論の水準の問題(1) 産業再生機構をめぐる2つの批判	2
2. 経済政策に関わる議論の水準の問題(2) 市場政策に関わる疑問符をつけざるを得ない事例が続く……	3
3. 競争市場の役割の現代的状況	4
4. 競争市場メカニズムの深刻な不全(1) 脆弱なりサイクル機能ゆえに「優勝劣敗」と「淘汰再編」の間に ゾンビ企業が滞留	5
5. 競争市場メカニズムの深刻な不全(2) 日本企業をめぐる市場の外部規律によるガバナンス機能の不全	6
6. 競争市場メカニズムの深刻な不全(7) 知識集約化時代の日本企業とM&Aの問題:人材市場現象としてのM&A	7
7. 独禁法行政の現代的課題	8

# 1. 経済政策に関わる議論の水準の問題(1)

## 産業再生機構をめぐる2つの批判



未だに30年前の陳腐な2極対立でしかものを考えられない低劣さ

「市場」に関する経済政策の焦点は、行動経済学、インセンティブ経済学的な視点からの制度論と市場「内」の失敗に対する政府部門(含む司法部門や準司法部門)の介入のあり方に移行

**市場か政府かではなく、国民と政府が市場経済をいかに国民福利に資するように使いこなすかの視点**

## 2. 経済政策に関わる議論の水準の問題(2) 市場政策に関わる疑問符をつけざるを得ない事例が続く…

- ◆ **競争市場政策(市場規制、制度設計およびその運用)の要諦**  
市場参加者がよりフェア、効率的、合理的に行動する整合的な動機付けを与える  
将来にわたって市場参加者の予見可能性(透明性)を高める



- ◆ 建築基準法、貸金業法、金商法、J-SOX法は現実の市場参加者の能力と動機付け構造を真に洞察していたか？
- ◆ 規制運用を通じた法創造作用は機能不全におちいていないか？
  - カネボウ粉飾事件における上場廃止をめぐる当時の東証のお粗末な判断基準  
日興事件において自ら醜態をさらす源に
  - ブルドックソース事件における最高裁判決の判例法的効果  
敵対的買収者を含むTOB合戦の場合にどうなるかは予測不能  
グリーンメーラーに金を払って引き取ってもらう事を正当化、勇気付け  
持ち合いを進めてガバナンスの空白化を進める事を動機付け
  - Jパワー問題  
??

**行動経済学、インセンティブ経済学を理解する学識経験者と  
トップクラスの市場参加経験者に政策立案と審判役を任せるべき**

**この観点から競争政策もさらなる深化と進化が求められる**

### 3. 競争市場の役割の現代的状況

---

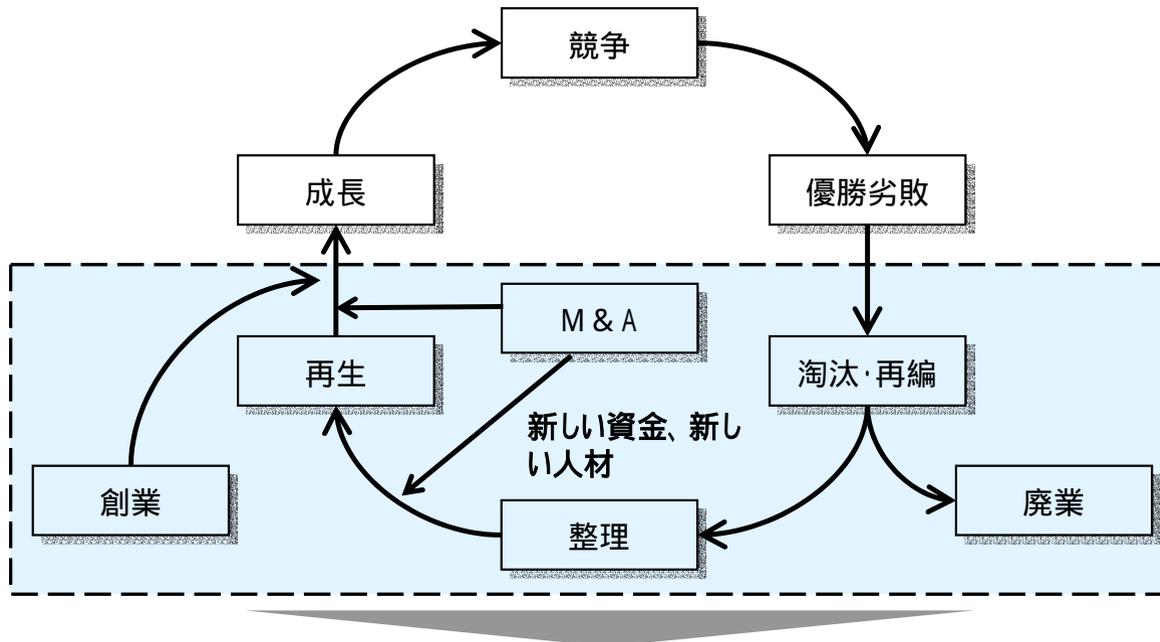
1. 古典経済学的な最適資源再配分論(短期的効率性)
  - 完全競争市場仮説の元の効率的資源配分(価格と量)
  - 市場の完全性に関わる「水平軸」と「垂直軸」(対等で自由な取引行動)
  
2. 競争と淘汰を通じた資源の最適再配分(中期的効率性)
  - 参入と退出
  - ヒト、モノ、カネ、ノウハウの効率的再配置
  
3. 競争の規律に基づくイノベーションの促進(長期的効率性)
  - 怠惰なる人間の本性への挑戦(イノベーションを促すインセンティブとして)
  - 過去の成果の上に安住する事をどこまで許すか



現実市場の不可避的な不完全性、限定合理性さらには「合理性」自体の多様性の中で、  
独禁法とその運用が市場経済の持続的発展に果す役割はさらなる深化と進化が求められる

## 4. 競争市場メカニズムの深刻な不全(1) 脆弱なりサイクル機能ゆえに「優勝劣敗」と「淘汰再編」の間にゾンビ企業が滞留

- ◆ インセンティブ経済学的に分析すると今の日本では個別企業が市場の力だけでスムーズに退出することはほとんどない。
- ◆ 有用な事業資源(とりわけ人的資源)を活用する上で、非効率企業や過剰債務企業において、市場退出の障壁を下げることに、実質的なM & Aを行ないやすくする制度や機関、プレーヤーを整備することが重要

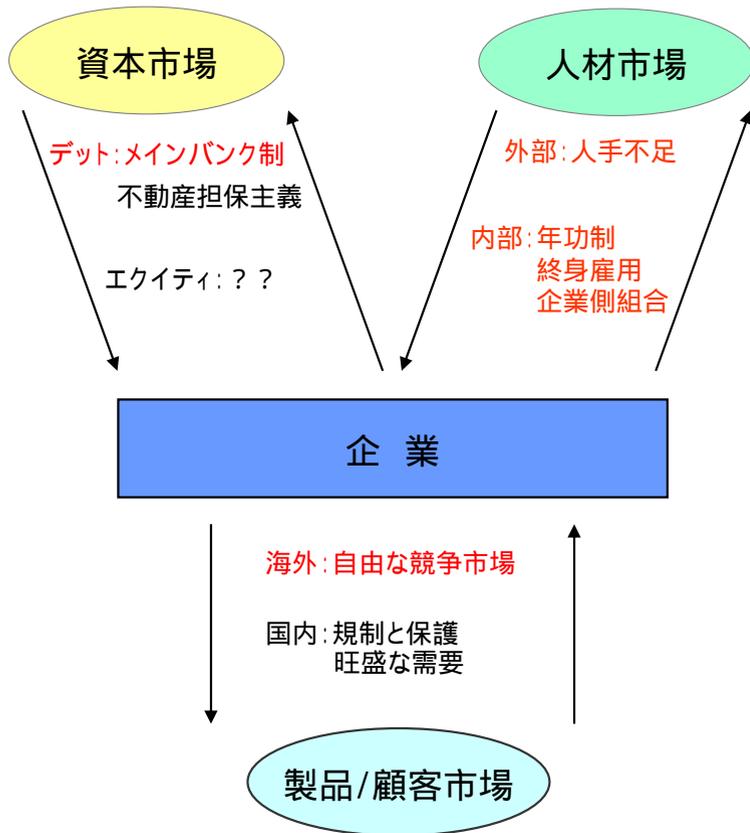


競争市場を通じての資源(ヒト、モノ、カネ)の再配置、最適化がうまく進まない

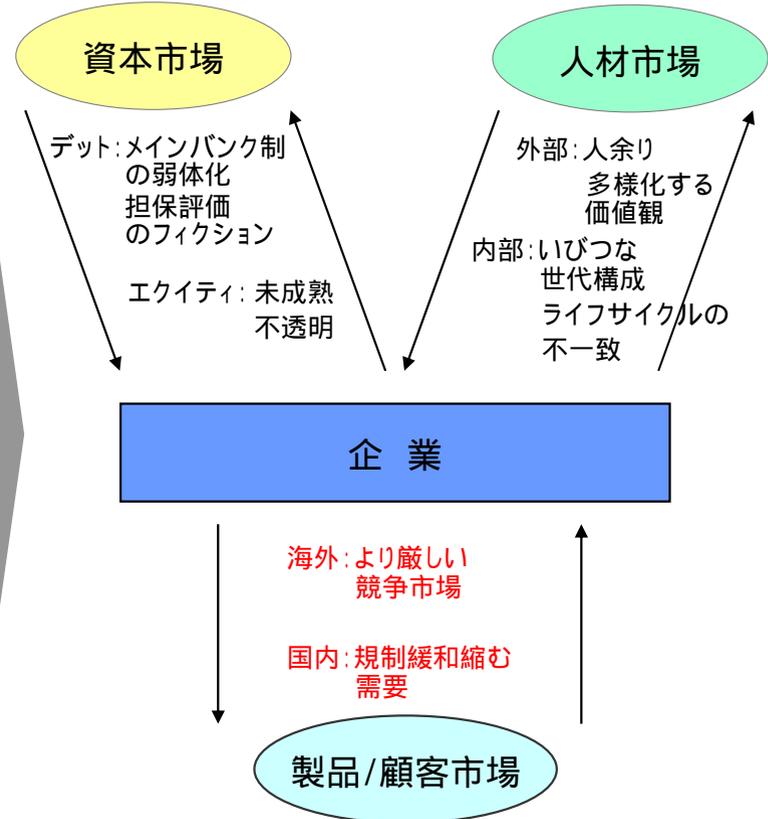
# 5. 競争市場メカニズムの深刻な不全(2) 日本企業をめぐる市場の外部規律によるガバナンス機能の不全



高度成長期の調和モデル



最近20年位の実態



## 6. 競争市場メカニズムの深刻な不全(7)

### 知識集約化時代の日本企業とM&Aの問題: 人材市場現象としてのM&A



- ◆ M&Aとは、事業体が会社の枠を超えて、移動、統合する価値創出手段
  - 価値の源泉は有機的に結合した知的資本、人的資本にある
  - 日本企業の知識集約化は集団型が多い(人材「集団」にこそ価値がある)
- ◆ 企業の寿命、事業の寿命と人間の寿命のミスマッチが生む人材市場のはなはだしい非効率
  - 組織と組織、会社と会社の枠を超えて人的資本(トップ、ミドル、ライン)がダイナミックかつガチンコ型で再配置する市場メカニズムが脆弱
  - 民民、官民、産学、産官、中央と地方…
- ◆ 日本は人的資源だけが頼りの国
  - 人材市場の非効率性の影響は極めて大
- ◆ 日本人のメンタリティーの多数派はムラ人<sup>ビト</sup>
  - 単独転職より集団転職

日本人のメンタリティーと価値創出メカニズムにフィットした人的資源の再配置、最適化手段としてのM&Aの重要性

人材市場現象として再評価し、さらに洗練・進化・深化させる必要性

## 7. 競争政策の現代的課題

---

- ◆ 行動経済学、情報の非対称経済学、経営経済学などの先端的な理論的成果、実践的な成果をとりこむ事
  
- ◆ 他の市場制度(資本市場、人材市場……)と統合的なインセンティブデザインを形成する事
  
- ◆ 日本の特有の問題
  - 水平軸:資本市場の規律の弱さからくる再編、構造転換の遅れ
  - 垂直軸:優越的地位の乱用による価値創出と報酬の不均衡がイノベーションや構造変化を阻害